

H2O s a k aビジョン推進会議 第5回会議 議事要旨

日時：平成30年9月11日（火）午後3時～5時

場所：一般財団法人大阪科学技術センター 4階 401号室

出席者：（会長）

（敬称略） 秋元圭吾（公益財団法人地球環境産業技術振興機構）

（構成団体）

池田泉州銀行、岩谷産業、大阪科学技術センター、大林組、オリックス、川崎重工業、関西電力、近畿大阪銀行、大和ハウス工業、竹中工務店、東芝エネルギーシステムズ、パナソニック、日立製作所、日立造船、三井住友銀行、三井物産、三菱東京UFJ銀行、三菱日立パワーシステムズ、りそな銀行

（事業別研究会座長）

F C船研究会座長、F Cバス研究会座長

（オブザーバー）

近畿経済産業局

（大阪府／大阪市関係課）

府）エネルギー政策課、環境保全課

市）都市計画局開発調整部開発計画課

（事務局）

大阪府商工労働部成長産業振興室産業創造課、大阪市環境局環境施策部環境施策課

議事要旨 （○：出席者 ⇒：事務局）

開会挨拶

議題1 「取組の現状について」

資料に沿って説明

議題2 水素関連プロジェクトの創出について

資料に沿って説明

◆意見交換

○温暖化ガスを減らす目標があるが、そのもとの目標設定などの検討はしているか。

⇒ CO₂削減に向けて、どれ程貢献出来るかを検討する議論が今後必要になってくるが、現時点では困難。

⇒ これから水素関連技術が発展していく中で、ある一定の見込める量を設定することになると考える。現時点では未だ一定の指標を設定する段階には及んでいないが、一定の寄与を担えるよう取組みを進めたい。

⇒ 水素エネルギーは2次エネルギーであり、水素だけでCO₂削減効果を測ることは難しい。

○水素を生活分野や医療分野、農林水産業等、エネルギー以外で活用出来ないか検討してはどうか。また、市街地において活用する際の規制が多く、活用の妨げになっている。ルール合理化が必要。万博・夢洲など大きなプロジェクトでの水素の活用が考えられるが、地産地消型の活用を行うことでも水素エネルギーを発展させることが出来るのではないかと。ビジネスモデルとしてどう取組むかが課題。

○コミュニティ単位で、新しいエネルギーとして期待される水素を、安全・安心・効率的に作って、貯めて使うことが重

要。(「脱炭素モデルタウン構想」の紹介。) 将来的に関西・大阪でもこういった取り組みを実施したいと考える。
⇒ CO₂を削減するだけでなく、ビジネスモデル・産業として、どう成立させるかの課題がある。エネルギーだけではなく、街全体でどのようなサービスを提供できるかを考えることも重要。そういう議論がここでも出来れば良い。
⇒ 規制緩和について、「要望する」というツールがあるので、要望・ご意見・ご提案があれば、積極的に国に要望を届けていきたい。民間だけではなく、地方自治体においても、災害時等に生活をどのように維持してゆくかのアイデア等が必要になるので、議論をしていただきたい。
⇒ 社会でのニーズが高まる BCP において、水素をどう位置づけるかが重要な課題。そこに結びつくアイデアがあればいい。

○コスト的には厳しいが、BCP に対する付加価値が重要視されたら、装置メーカーにとっても意義が明確になると考える。プロジェクト創出や意見交換を通してポテンシャルの発掘が出来れば、採算性のとれるプロジェクトができるのではないか。例えばベッドタウンの空き家に燃料電池を設置・BCP 電源として導入し、行政課題を解決できるような住民目線に近いプロジェクトが創出出来ればいいと考える。

○「2050 年において実用化され汎用的になるであろうものを、2025 年の万博で登場させる」と言われているが、規制緩和がある程度見切りに必要、だからこそ革新的なものが誕生するのでは。今回のような災害が発生した場合、パッケージされたエネルギーが、例えばコンビニ等にあれば、そこが防災拠点になる。そういう利用の仕方を考えると、水素はとても有効なツールではないか。

⇒ 社会課題・行政課題の解決と結び付けることで、水素エネルギーの活用が更に発展すると考えられる。
⇒ 大阪府・大阪市・大阪商工会議所で「実証事業都市大阪」という取り組みを実施している。フィールドの紹介や規制緩和に関する相談などの取り組みを進めている。
⇒ 万博開催が決定すれば様々な検討が進むが、規制緩和に関しては議論が出てくるだろう。具体的な意見があれば具体的に動くと考えてるので、様々な情報と意見を持つことが重要。
⇒ 万博・IR 等で実証の場の確保に努めていく所存なので、「万博でこのようなことを実施したい」といったご意見があれば、お寄せ頂きたい。
⇒ 中国が先進的にビジネス化を進めている印象がある。規制がゆるく、何でもチャレンジできる部分があるからと考えられる。重要でない規制を除外しながら新しい芽を出していくことも重要。

○ (大阪市委託事業について) いきなり FCV より、まずは E V のレンジエクステンダーから水素へもっていく方がいいのではないか。また定置用燃料電池では、量の面からも液化水素が必要になるのではないか。その立場から見直せばプロジェクトに参加する企業も増えるのではないか。

○ 現状では水素ステーションは「国の助成金があってもコスト的に成り立たない」という理由でなかなか増えない。FCV を増やしたら良いが、自家用車を増やすのは難しく、業務用車両を増やすことが重要。海外から燃料電池を購入してでもどんどん増産するなどしないと進まないと考える。「規制」が障害になる問題を解決出来るよう、大阪府・大阪市にお願いしたい。

⇒もう少し拡大して、水素発電についてお聞きしたい

○NEDO 水素発電導入可能性に関する調査について説明

議題3 その他

資料に沿って説明

閉会挨拶